



Title	上田功教授略歴および研究業績一覧
Author(s)	
Citation	大阪大学英米研究. 2018, 42, p. 11-28
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99415
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



上 田 功 教授

上田 功 教授

略歴および研究業績一覧

【略歴】

(学歴)

- 1974 年 4 月 大阪外国語大学外国語学部アラビア語学科入学
- 1978 年 3 月 大阪外国語大学外国語学部アラビア語学科卒業（文学士）
- 1978 年 4 月 大阪外国語大学外国語学部 I 部英語学科学士入学
- 1980 年 9 月 アメリカ合衆国ウィスコンシン大学ミルウォーキー校留学
（文部省学術交換派遣留学生 1981 年 6 月まで）
- 1983 年 3 月 大阪外国語大学外国語学部 I 部英語学科卒業
- 1983 年 4 月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科英語学専攻入学
- 1985 年 3 月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科英語学専攻修了（文学修士）

(専任職歴)

- 1985 年 4 月 大阪学院大学商学部助手
- 1986 年 10 月 大阪学院大学外国語学部講師（1990 年 1 月まで）
- 1989 年 9 月 アメリカ合衆国インディアナ大学言語学科研究員（連邦政府
国立衛生研究所基金プロジェクト研究員 1990 年 1 月まで）
- 1990 年 2 月 静岡大学教育学部英語学講座助教授
- 1990 年 4 月 静岡大学教育学部大学院教育学研究科担当
- 1995 年 10 月 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科アメリカ講座助教授
- 1995 年 10 月 静岡大学教育学部英語学講座助教授併任（1996 年 3 月まで）
- 1996 年 4 月 大阪外国語大学大学院外国語学研究科担当

- 1997 年 3 月 アメリカ合衆国インディアナ大学言語学科・音声言語医学科
客員研究員（フルブライト交換研究員 1998 年 4 月まで）
- 1998 年 4 月 大阪外国語大学大学院言語社会研究科担当（研究科改組によ
る）
- 2006 年 3 月 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科アメリカ講座教授に
昇進
- 2007 年10月 大阪大学大学院言語文化研究科教授に配置換（国立大学法人
法平成 19 年法律第 89 号による）
- 2007 年10月 大阪大学外国語学部教授（兼任）
- 2007 年10月 大阪大学教育実践センター兼務（2009 年 3 月まで）
- 2011 年 4 月 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・福井大学・千葉大学連
合大学院博士課程小児発達学研究科教授（兼任）
- 2011 年 4 月 大阪大学未来戦略機構第 1 部門超域イノベーションプログラ
ム教授（兼任）
- 2018 年 4 月 大阪大学名誉教授

（非常勤職歴）

- 1991 年 4 月 神奈川大学外国語学部非常勤講師（1995 年 3 月まで）
- 1993 年 4 月 静岡県立大学国際関係学部非常勤講師（1996 年 3 月まで）
- 1998 年 4 月 京都大学総合人間学部・高等教育研究開発機構非常勤講師
（2005 年 3 月まで）
- 1998 年 4 月 奈良女子大学文学部非常勤講師（現在に至る）
- 2002 年 4 月 京都大学大学院文学研究科非常勤講師（現在に至る）
- 2007 年11月 神戸大学大学院国際文化学研究科非常勤講師（2008 年 3 月ま
で）
- 2008 年 4 月 関西学院大学文学部非常勤講師（2010 年 3 月まで）
- 2009 年 4 月 同志社大学大学院文学研究科非常勤講師（現在に至る）
- 2010 年 4 月 福岡教育大学特別教育支援センター客員研究員（現在に至る）

(その他の職歴)

- 1999 年12月 文部省教科用図書検定審議会調査員（中学校英語）（2000 年10月まで）
- 2000 年 4 月 文部省国費外国人留学生（学部留学生）現地選考試験問題作成者（英語）（2004 年 3 月まで）
- 2002 年 4 月 独立行政法人大学入試センター新課程試験問題調査研究委員会委員（2004 年 3 月まで）
- 2004 年 4 月 独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会委員（リスニング）（2005 年 3 月まで）
- 2005 年 4 月 独立行政法人大学入試センター教科科目第一委員会臨時委員（リスニング）（2006 年 3 月まで）
- 2006 年 8 月 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員（書面専門委員）（2008 年 7 月まで）
- 2008 年12月 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（第1段審査委員）（2009 年11月まで）
- 2009 年12月 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（第1段審査委員）（2010 年11月まで）
- 2011 年 8 月 日本学術振興会特別研究員等審査会専門員・国際事業委員会専門委員（書面専門委員）（2013 年 7 月まで）
- 2014 年 8 月 日本学術振興会特別研究員等審査会専門員・国際事業委員会書面審査員・書面評価委員（2016 年 7 月まで）

(学会役員)

- 関西言語学会 1986 年から現在まで運営委員，1994 年から 2013 年まで大会実行委員，2014 年から現在まで大会実行委員長，1986 年から 1989 年，1994 年から 1995 年まで事務局長
- 日本言語学会 2000 年から 2003 年まで運営委員，2003 年から 2006 年までと 2016 年から 2018 年まで機関誌『言語研究』編集委員，2013 年

から現在まで評議員

日本英語学会 2000 年から 2002 年まで大会準備委員

日本音声学会 1995 年から 1998 年まで庶務委員, 1996 年から現在まで評議員, 2010 年から 2012 年まで機関誌『音声研究』編集委員

日本音声言語医学会 2008 年から現在まで機関誌『音声言語医学』査読委員

日本音韻論学会 2001 年から 2005 年まで理事, 2005 年から 2009 年まで副会長, 2009 年から 2013 年まで会長, 2013 年から現在まで顧問

The International Clinical Phonetics and Linguistics Association 2003 年から 2006 年まで機関誌 *Journal of Multilingual Communication Disorders* 編集委員, 2014 年から現在まで機関誌 *Clinical Linguistics and Phonetics* 編集委員

The International Symposium of Monolingual and bilingual Speech 2015 年から現在まで scientific committee 委員

(受賞)

2015 年 7 月 大阪大学総長顕彰 (教育部門)

2017 年 11 月 大阪大学賞 (教育部門)

【研究業績一覧】

著書

1. 『英語学 I 統語論・音韻論』, (共), 大阪教育図書, 1987 年 4 月.
2. 『基礎からの英語音声学』, (共), 大学書林, 1992 年 3 月.
3. 『言語探求の領域』, (共), 大学書林, 1996 年 3 月.
4. 『音韻理論ハンドブック』, (共), 英宝社, 2004 年 3 月.
5. 『英語教育の基礎知識』, (共), 大修館書店, 2004 年 3 月.

6. 『言外と言内の交流分野』(共), 大学書林, 2006年4月.
7. *International Guide to Speech Acquisition*, (共), Thomson Delmar Learning (New York), 2007年4月.

学術論文

1. "Phonology and functional speech disorders" (査読無し), (単), *Kansai Linguistic Society* 4, pp.97-103, 1984年11月.
2. 「等位構造に観られる省略について」(査読無し), (単), *Studium*, 13, pp.95-115 (大阪外国語大学院生協議会), 1984年11月.
3. 「自然言語の音韻分析をめぐって (I)」(査読無し), (単), 『大阪学院大学通信』16. 10号 pp.35-44, 1986年1月.
4. 「中間言語音韻分析序説」(査読有り), (単), 『大阪学院大学外国語論集』15 pp.77-92, 1986年2月.
5. 「幼児言語の音韻記述」(査読有り), (単), 『言葉の多様性』(バン・八代・秋山編) pp.130-45, 文化評論出版, 1986年7月.
6. 「英語科教育法における言語習得理論の扱いについて」(査読無し), (単), 『中部地区英語教育学会紀要』16 pp.117-20, 1987年2月.
7. "Notes on cliticization" (査読有り), (単), 『大阪学院大学外国語論集』17 pp.110-23, 1987年3月.
8. 「対照分析仮説と音韻習得」(査読無し), (単), 『言語学の視界－小泉保教授還暦記念論文集』pp.31-41, 大学書林, 1987年3月.
9. 「自然言語の音韻分析をめぐって (II)」(査読無し), (単), 『大阪学院大学通信』18. 4号 pp.25-35, 1987年7月.
10. 「等位構造と省略: その容認度」(査読無し), (単), 『静岡大学教育学部研究報告(人文・社会科学篇)』43 pp.103-15, 1991年3月.
11. "Allophonic variation in a functional misarticulation system of Japanese" (査読有り), (単), *Milwaukee Studies on Language* 6. pp.97-104 University of Wisconsin, 1992年3月.

12. 「ロマンス語の「引き連鎖」と依存音韻関係」(査読有り), (単), 『音声学会会報』 204 pp.31-39 (日本音声学会), 1993 年 12 月.
13. 「機能的構音障害における「傾向」と「例外」の言語学的説明を求めて」(査読有り), (単), 『言語研究』 106 pp.74-94 (日本言語学会), 1994 年 11 月.
14. 「構音障害と自然音韻過程分析－音韻論からみたいいくつかの問題点」(査読有り), (単), 『音声言語医学』 36 pp.331-37 (日本音声言語医学会), 1995 年 7 月.
15. 「言語習得と言語理論」(査読無し), (単), *Kansai Linguistic Society* 15 pp.164-67 (関西言語学会), 1995 年 11 月.
16. "On the phonology of Japanese 'kappacism'" (査読有り), (単), *Pathologies of Speech and Language-Contributions of Clinical Phonetics and Linguistics*. pp.179-186 The International Clinical Phonetics and Linguistics Association. (New Orleans), 1996 年 1 月.
17. 「画像・音声を取り入れた語学教材開発の試み」(査読無し), (共), 『静岡大学教育実践研究指導センター紀要』 4 pp.119-33, 1996 年 3 月.
18. 「教員研修留学生の受け入れと教育－日本語能力の問題を中心に－」(査読無し), (共), 『静岡大学教育実践研究指導センター紀要』 4 pp.1-9, 1996 年 3 月.
19. "Segmental acquisition and feature specification in Japanese" (査読有り), (単), *Proceedings of The UBC International Conference on Phonological Acquisition* pp.15-27 Cascadella Press (Somerville, Massachusetts), 1996 年 6 月.
20. 「音韻理論と言語障害」(査読無し), (単), 『音韻研究 理論と実践』 pp.191-92 (音韻論研究会), 1996 年 11 月.
21. "The acquisition of pronominal modification structures: Comparison of L1 and L2" (査読無し), (共), *The Emergence of Human Cognition and Language* 3 pp.76-78, 1997 年 3 月.

22. “A paradox in process-based analysis” (査読有り), (共), *Clinical Phonetics and Linguistics*. pp.123-30 Singular Publishing Group (San Diego, California), 1998 年 1 月.
23. 「音韻獲得に関する基礎理論研究」(査読無し), (単), 『文部省科学研究費補助金重点領域研究〔認知・言語の成立〕』 pp.106-14, 文化出版, 1998 年 3 月.
24. “Constraint-based analysis of Japanese rhotacism” (査読有り), (共), *Pathologies of Speech and Language-Advances in Clinical Phonetics and Linguistics*. pp.25-33 Whurr Publishers (London), 1999 年 9 月.
25. “A functional typology of functional misarticulation” (査読有り), (単), *Communication and its Disorders: A Science in Progress*. pp.992-94 Nijmegen University Press (Nijmegen), 1999 年 10 月.
26. “Promotion and demotion of phonological constraints in the acquisition of the Japanese liquid” (査読有り), (共), *Clinical Linguistics & Phonetics* 15 pp.29-33, 2001 年 1 月.
27. 「音韻獲得における 2 つのレベルと素性 (未) 指定」(査読無し), (単), 『英米研究』 25, pp.1-11 (大阪外国語大学英米学会), 2001 年 3 月.
28. The acquisition of Japanese “r” (査読有り), (共), 『言語研究』 119 pp.103-31 (日本言語学会), 2001 年 3 月.
29. 「強調による長音化と促音・撥音の挿入－静岡中部方言の場合」(査読有り), (共), *Ars Linguistica (Linguistic Studies of Shizuoka)* 8 pp.60-71 (日本中部言語学会), 2001 年 6 月.
30. 「方言差異と最適性理論」(査読無し), (単), 月刊『言語』 30 No.10 pp.56-61, 大修館書店 (東京都), 2001 年 9 月.
31. 「静岡方言の形容詞強調にみられるモーラ増加について」(査読無し), (単), *Kansai Linguistic Society* 21 pp.77-86 (関西言語学会), 2001 年 10 月.
32. “Mora augmentation in Shizuoka Japanese” (査読有り), (共), *Japanese/*

- Korean Linguistics* 10 pp.392-405 Center for the Study of Language and Information (Stanford University), 2002 年 3 月.
33. “Mora augmentation processes in Japanese” (査読有り), (共), *Journal of Japanese Linguistics* 18 pp.1-23, 2002 年 3 月.
 34. 「音韻対立の獲得と文脈」(査読無し), (単), 『英米研究』 28 pp.111-33 (大阪外国語大学英米学会), 2004 年 3 月.
 35. “The developmental paths in the acquisition of the Japanese liquid” (査読有り), (共), *Developmental Paths in Phonological Acquisition: Special Issue of Leiden Papers in Linguistics* 2. 1. pp.117-35 (Leiden University), 2005 年 2 月.
 36. “Some formal and functional typological properties in developing phonologies” (査読有り), (単), 『言語研究』 127 pp.115-35 (日本言語学会), 2005 年 3 月.
 37. “Some aspects of English coda cluster acquisition by Japanese learners” (査読有り), (単), *Proceedings of the 3rd Seoul International Conference of Phonology*. pp.224-35 The Phonology-Morphology Circle of Korea, 2005 年 6 月.
 38. “Prosodic vs. morphological mora augmentation” (査読有り), (共), *Lexicon Forum* 2 pp 121-43, 2006 年 4 月.
 39. “Does accentuation of L1 transfer to L2? —A preliminary study on Osaka and Tokyo dialect speakers’ pronunciation of English” (査読有り), (共), *Proceedings of Phonetic Teaching and Learning*. File 04 e University College London., 2007 年 8 月.
 40. 「静岡方言に観られる強調形の形態音韻的特徴」(査読有り), (単), 『語彙と意味の文法』 由本陽子・岸本秀樹 (編) pp.3-10 くろしお出版, 2008 年 2 月.
 41. 「音韻理論と構音障害」(査読有り), (単), 『音声研究』 12 pp.3-16 日本音声学会, 2008 年 12 月.

42. “The interface between phonology, pragmatics and syntax in nuclear misplacement” (査読有り), (共), *Proceedings of the 2009 Mind/Context Divide Workshop* pp.116-22 Cascadella Press., 2010 年 3 月.
43. 「言語聴覚士のための臨床音韻分析－言語学からみた基本的留意点」(査読無し), (単), 『福岡教育大学付属特別支援教育センター紀要』3, pp.19-22, 2010 年 3 月.
44. 「日本人学習者によるイントネーション核の誤配置」(査読有り), (共), 『音声研究』15.1 pp.87-95 (日本音声学会), 2011 年 4 月.
45. 「「社会音声学」から見た静岡方言の強調動詞」(査読無し), (単), 『音声言語の研究』5, pp.7-12, 2011 年 5 月.
46. “Tonic misplacement by Japanese learners of English” (査読有り), (共), *Exploring English Phonetics*. Cubrovicé, B. and Paunovicé, T. (eds.) pp.73-83 Cambridge Scholars Publishing, 2012 年 3 月.
47. “On the status of two emphatic verbs in Shizuoka Japanese” (査読有り), (単), *Proceedings of “Sociophonetics, at the crossroads of speech variation, processing, and communication*. pp.73-75, 2012 年 3 月.
48. 「機能性構音障害の音韻分析－臨床的視点からの考察－」(査読有り), (単), 『音声研究』17.2, pp.21-28 日本音声学会, 2013 年 8 月.
49. “The phonetic similarity in transliterated trademarks——A preliminary case study in Japanese” (査読有り), (単), *Focus on English Phonetics*. Cubrovicé, B. and Paunovicé, T. (eds.) Cambridge Scholars Publishing, pp.237-50, 2013 年 9 月.
50. “Retention of an irregular feature specification as a source of functional misarticulation” (査読有り), (単), *Philologia* 11 pp.1-10, 2013 年 12 月.
51. 「危機方言保存の試み－方言認識に向けたカリキュラム「ノース・カロライナの声」を例にとって」(査読無し), (単), 『英米研究』38, pp.31-50, 2016 年 3 月.
52. “On the nature of functional misarticulation in Japanese” (査読有り),

(単), *Proceedings of The 5th International Conference on Phonology and Morphology*, pp.97-109, 2014 年 7 月.

53. 「機能性構音障害の音韻体系は「自然」なのか?」, (査読有り), (単), 『より良き代案を絶えず求めて』 pp.453-461, 開拓社, 2015 年 3 月.
54. “The acquisition of English intonation by Japanese elementary learners” (査読有り), (単), *Philologia* 15/16, pp.1-12., 2016 年 9 月
55. 「音韻獲得と入力型」(査読無し), (単), 『現代音韻論の動向: 日本音韻論学会 20 周年記念論文集』 pp.154-157, 2016 年 9 月.
56. 「言語共通の音韻発達遅滞評価をめぐって」(査読有り), (単), 『音韻研究の新展開－窪蘭晴夫先生還暦記念論文集』 pp.220-230. , 開拓社, 2017 年 3 月.
57. 「等位節省略再訪」, (査読有り), [単], 『ことばを編む』 pp.17-26. 開拓社 2018 年 2 月.

翻訳

1. 『構造統語論要説』, (共), (原著: Lucian Tesnière 1982. *Éléments de Syntaxe Structurale*) 担当部分 1－章 26 章, 研究社, 2007 年 2 月

学習辞典

1. *E-Gate English-Japanese Dictionary*, (共), ベネッセコーポレーション, 2003 年 1 月.

文部科学省検定高等学校教科書英語

1. *Tomorrow English Course I*, (共), 新興出版社啓林館, 1997 年 2 月.
2. *Tomorrow English Course II*, (共), 新興出版社啓林館, 1998 年 2 月.
3. *Tomorrow English Course I*, (共), 新興出版社啓林館, 2002 年 2 月.
4. *Milestone English Course I*, (共), 新興出版社啓林館, 2002 年 2 月.
5. *Tomorrow English Course II*, (共), 新興出版社啓林館, 2003 年 2 月.

6. *Milestone English Course II*, (共), 新興出版社啓林館, 2003 年 2 月.

雑誌記事

1. 「最適性理論の広がり」, (単), 『英語青年』第 147 巻 2 号 p.106, 研究社, 2001 年 5 月.
2. 「獲得期の音韻知識をめぐって」, (単), 『英語青年』第 147 巻 5 号 p.305, 研究社, 2001 年 8 月.
3. 「音韻獲得のパラドックス」, (単), 『英語青年』第 147 巻 8 号 p.508, 研究社, 2001 年 8 月.
4. 「音韻獲得と入力: 古くて新しい問題」, (単), 『英語青年』第 147 巻 11 号 p.721, 研究社, 2002 年 2 月.

学内英語教育改革報告書

1. 『新しい副専攻英語教育(自己点検・評価委員会の答申に応じて)』, (共), 大阪外国語大学, 2000 年 3 月.
2. 『大阪外大全体の効果的な英語教育』, (共), 大阪外国語大学, 2001 年 3 月.
3. 『大阪外大全体の効果的な英語教育』, (共), 大阪外国語大学, 2002 年 3 月.
4. 『語学教育における到達度評価策定のための基礎研究』, (共), 大阪外国語大学, 2005 年 3 月.

高校生向け専攻分野紹介記事

1. 「英米語学」, (単), 『蛍雪時代 全国大学学部・学科案内号』 p.190, 2015 年 4 月.
2. 「英米語学」, (単), 『蛍雪時代 全国大学学部・学科案内号』 p.198, 2016 年 4 月.
3. 「英米語学」, (単), 『蛍雪時代 全国大学学部・学科案内号』 p.202,

2017 年 4 月.

4. 「英米語学」, (単), 『蛭雪時代 全国大学学部・学科案内号』 p.206,
2018 年 4 月

学会口頭発表・講演

1. “Phonology and children’s functional speech disorders” (審査有り),
(単), 第 8 回関西言語学会大会 (大阪外国語大学), 1983 年 11 月.
2. “Contrastive phonology in second Language acquisition” (審査無し),
(単), 英語音韻論研究会第 2 回研究会 (京都大学), 1985 年 6 月.
3. 「幼児言語の音韻記述」 (審査有り), (単), 第 9 回 ICU 幼児言語研究会
(国際基督教大学), 1985 年 8 月.
4. 「英語科教育法における言語習得理論の扱いについて」 (審査有り),
(単), 中部地区英語教育学会山梨研究大会 (山梨大学), 1986 年 6 月.
5. 「関係節習得についての一考察」 (審査有り), (単), 全国英語教育学会
京都研究大会 (京都パークホテル), 1988 年 8 月.
6. “Some problems in interlanguage phonology” (審査有り), (単), 中部地
区英語教育学会石川研究大会 (北陸大学), 1989 年 6 月.
7. “Parallelism in non-primary phonologic acquisition” (審査有り), (単), 全
国英語教育学会盛岡研究大会 (岩手大学), 1989 年 8 月.
8. “Theoretical aspects of clinical phonology” (審査有り, 懇話発表),
(単), 第 7 回日本英語学会 (神戸大学), 1989 年 11 月.
9. “A functional constraint on elliptical coordination” (審査無し), (単), 中
部言語学会第 23 回研究会 (静岡大学), 1990 年 12 月.
10. 「機能的構音障害における「傾向」と「例外」の言語学的説明を求めて」
(審査有り), (単), 日本言語学会第 102 回大会 (東京外国語大学),
1991 年 6 月.
11. 「依存音韻論からみた音韻習得」 (審査有り), (単), 日本言語学会第
107 回大会 (愛媛大学), 1993 年 10 月.

12. 「ハイパーメディアを利用した英語教材」(審査有り), (共), 中部地区英語教育学会岐阜研究大会(岐阜大学), 1994年6月.
13. 「カ行音の障害とその発達」(審査有り), (単), 日本音声学会全国大会(同志社大学), 1994年9月.
14. 「機能性構音障害と Phonological Process Analysis」(審査有り), (単), 第39回日本音声言語医学会総会(金沢市民文化ホール), 1994年10月.
15. “On the phonology of Japanese ‘kappacism’”(審査有り), (単), The 4th International Clinical Phonetics and Linguistics Association Meeting (アメリカ合衆国, ニューオリンズ), 1994年11月.
16. 「連母音融合に係わる変異形をめぐる」(審査有り), (単), 日本中部言語学会第31回研究会(静岡大学), 1994年12月.
17. “Segmental acquisition and feature specification in Japanese”(審査有り), (単), The UBC International Conference on Phonological Acquisition (カナダ, バンクーバー), 1995年6月.
18. 「新しい弁別素性理論からみた構音障害」(審査有り), (単), 第40回日本音声言語医学会総会(鹿児島サンロイヤル), 1995年11月.
19. “A paradox in process-based analysis”(審査有り), (共), The 5th International Clinical Phonetics and Linguistics Association Meeting. (ドイツ連邦共和国, ミュンヘン), 1996年9月.
20. “Constraint-based analysis of Japanese rhotacism”(審査有り), (共), The 6th International Clinical Phonetics and Linguistics Association Meeting. (オランダ王国, ナイメーヘン), 1997年10月.
21. 「日本語子音の獲得」(審査無し, シンポジウム講師), (単), 日本英語学会第15回大会(東京都立大学), 1997年11月.
22. “Some formal and functional typological properties in developing phonologies”(審査有り), (単), The Third Utrecht Biannual Phonology Workshop. (オランダ王国, ユトレヒト), 1998年6月.

23. “A functional typology of functional misarticulation” (審査有り), (単),
The 24th World Congress of the International Association of Logopedics and
Phoniatrics. (オランダ王国, アムステルダム), 1998 年 8 月.
24. “Promotion and demotion of phonological constraints in the acquisition of
the Japanese liquid” (審査有り), (共), The 7th International Clinical Pho-
netics and Linguistics Association Meeting (カナダ, モントリオール),
1999 年 5 月.
25. 「静岡方言の形容詞強調にみられるモーラ増加について」(審査なし, 招
待発表), (単), 第 25 回関西言語学会大会 (神戸商科大学), 2000 年 10
月.
26. “Mora augmentation in Shizuoka Japanese” (審査有り), (共), The 10th
Japanese/Korean Linguistics Conference. (アメリカ合衆国, ロサンゼル
ス), 2000 年 10 月.
27. “Morphological mora augmentation” (審査有り), (共), Holland Institute
of Linguistics- Phonology 5. (ドイツ連邦共和国, ポツダム), 2001 年 1
月.
28. “The typology of mora augmentation” (審査有り), (共), Linguistics and
Phonetics 2002 (明海大学), 2002 年 9 月.
29. “The developmental paths in the acquisition of the Japanese liquid” (審査有
り), (共), Developmental Paths in Phonological Acquisition Conference
(オランダ王国 ライデン), 2004 年 9 月.
30. “Individual error patterns in coda acquisition——A case study of Japanese
learners of English” (審査有り), (共), Generative Approaches to Lan-
guage Acquisition North America Conference (アメリカ合衆国, ホノル
ル), 2004 年 12 月.
31. “Variation in the acquisition of English coda clusters” (審査無し), (単),
LINGUISTICS SYMPOSIUM (台湾 高雄), 2007 年 3 月.
32. “Does accentuation of L1 transfer to L2? ——A preliminary study on Osaka

- and Tokyo dialect speakers' pronunciation of English" (審査有り), (共), *Phonetic Teaching and Learning*, (連合王国, ロンドン), 2007 年 8 月.
33. "The phonology of tonic misplacement by Japanese learners of English" (審査有り), (共), The 12th Congress of International Clinical Phonetics and Linguistics Association (トルコ共和国, イスタンブール), 2008 年 6 月.
 34. "On the interaction between phonology and syntax in tonic misplacement" (審査有り), (共), Mind-Context Divide Workshop: Language Acquisition and Interfaces of Cognitive-Language Modules (アメリカ合衆国, アイオワシティー), 2009 年 5 月.
 35. "On the production and knowledge of tonic misplacement by Japanese learners of English" (審査有り), (共), The Second Belgrade International Meeting of English Phoneticians. (セルビア共和国, ベオグラード), 2010 年 3 月.
 36. "An idiosyncratic vowel disorder in Japanese" (審査有り), (単), The 13th International Clinical Phonetics and Linguistics Association Meeting. (ノルウェー王国, オスロ), 2010 年 6 月.
 37. 「音韻獲得, 音韻障害, そして音韻理論」(審査無し, 招待講演), (単), 第 13 回認知神経心理学研究会 (東京学芸大学), 2010 年 8 月.
 38. "On the status of two emphatic verbs in Shizuoka Japanese" (審査有り), (単), Sociophonetics, at the crossroads of speech variation, processing, and communication. (イタリア共和国, ピサ), 2010 年 12 月.
 39. 「音韻障害の臨床分析に係わる問題点」(審査有り, 招聘発表), (単), 第 29 回日本英語学会大会 (新潟大学), 2011 年 11 月.
 40. "The phonetic similarity in transliterated trademarks——A preliminary case study in Japanese" (審査有り), (単), The Third Belgrade International Meeting of English Phoneticians. (セルビア共和国, ベオグラード), 2012 年 3 月.
 41. "Two types of rhotacism: From a clinical perspective" (審査有り),

- (単), The 14th meeting of International Clinical Phonetics and Linguistics Association. (アイルランド共和国, コーク), 2012 年 6 月.
42. 「音韻の獲得と障害をめぐって」(審査無し, 招待講演), (単), 私学共催親交財団学術振興資金研究講演会シリーズ「言語と脳」第 4 回講演会(津田塾大学), 2012 年 12 月.
43. 「商標登録における音声的類似について－予備的考察」(審査有り), (共), 第 146 回日本言語学会大会(茨城大学), 2013 年 6 月.
44. “Some functional misarticulation systems in Japanese” (審査有り), (共), Knowledge Mobilization for an International Crosslinguistic Study of Children’s Speech Development. (カナダ, バンクーバー), 2013 年 8 月.
45. “Tautosyllabic vowels as an indicator of liquid acquisition: A case study in Japanese” (審査有り), (単), The 9th Asia Pacific Conference on Speech, Language and Hearing. (台湾, タイチウン), 2013 年 11 月.
46. 「日本人英語の最後の訛り－文アクセントをめぐって」(審査無し, 招待講演), (単), 音声学・音韻論特別公開講演会・研究発表会(福岡大学), 2013 年 2 月.
47. 「読みの獲得段階における未熟さと読み障害の違いはどこにあるのか?－音韻分析と用いて－」(審査有り), (共), 第 40 回日本コミュニケーション障害学会(金沢大学), 2014 年 5 月.
48. “On the nature of functional misarticulation in Japanese” (審査無し, 招待講演), (単), The 5th International Conference on Phonology and Morphology. (大韓民国, クワンジュ), 2014 年 7 月.
49. 「読み困難児の読みに及ぼす音節量構造の影響－LH 構造と HL 構造との比較」(審査有り), (共), 第 59 回日本音声言語医学会(アクロス福岡), 2014 年 10 月.
50. 「幼児における単語の読み誤りの変化－分節的側面と韻律的側面に着目して」(審査有り), (共), 第 41 回日本コミュニケーション障害学会(福岡大学), 2015 年 5 月 16 日.

51. “Functional aspects of Japanese liquid acquisition” (審査有り), (単), International Symposium on Monolingual and Bilingual Speech (ギリシャ共和国, ハニア), 2015 年 9 月.
52. 「読み困難児の読みと音節・モーラの関係－幼児期の逐字読み群と流暢読み群との比較」(審査有り), (共), 日本特殊教育学会代 53 回大会 (東北大学), 2015 年 9 月.
53. “Voicing and devoicing of final stop target in similar German and English word pairs by native speakers of Japanese-A case study of L3 phonological acquisition” (審査有り), (共), New Sounds 2016 (デンマーク王国, オーフス), 2016 年 6 月.
54. 「音韻理論と音韻事象」(審査無し, シンポジウム招待講師), (単), 日本音韻論学会第 20 回記念大会 (首都大学東京), 2016 年 6 月.
55. 「イントネーション習得の諸相－音韻, 統語, 語用の交差するところ」(審査有り, 招聘発表) 日本英語学会第 34 回大会 (金沢大学), 2017 年 11 月.

科学研究助成費獲得実績

(研究代表者)

1. 基盤研究 C 「スピーチセラピスト用言語障害児音韻体系分析マニュアルの開発」1998-2000 年.
2. 基盤研究 C 「幼児の音韻障害の言語学に基づく臨床分析方法の確立」2001-2003 年.
3. 基盤研究 C 「言語音韻体系獲得と喪失のメカニズム」2001-2007 年.
4. 基盤研究 C 「音韻障害と外国語訛りの平行性に関する言語学的研究」2008-2012 年.
5. 基盤研究 B 「幼児の音韻障害と成人の外国語訛りの平行性に関する音声学・言語学的研究」2014-2017 年.

(研究分担者)

6. 重点領域研究「精神遅滞児における語連鎖開始期の言語知識に関する研究」1993 年.
7. 重点領域研究「語連鎖に関わる言語知識の成立過程に関する研究」1994-1995 年.
8. 重点領域研究「吃音の言語学的分析：特殊拍と吃音症状」1996 年.
9. 基盤研究 A「自律調和的視点から見た音韻類型のモデル」2008-2011 年.
10. 基盤研究 B「言語の普遍性と個別性を考慮した言語障害の症状の解明とそのセラピーの探求」2011-2014 年.
11. 基盤研究 B「必異原理の射程と効力に関する研究」2012-2015 年.
12. 基盤研究 B「隣接諸科学乗り入れ型の手法による音韻理論の外的・内的検証の研究」2016-2020 年.